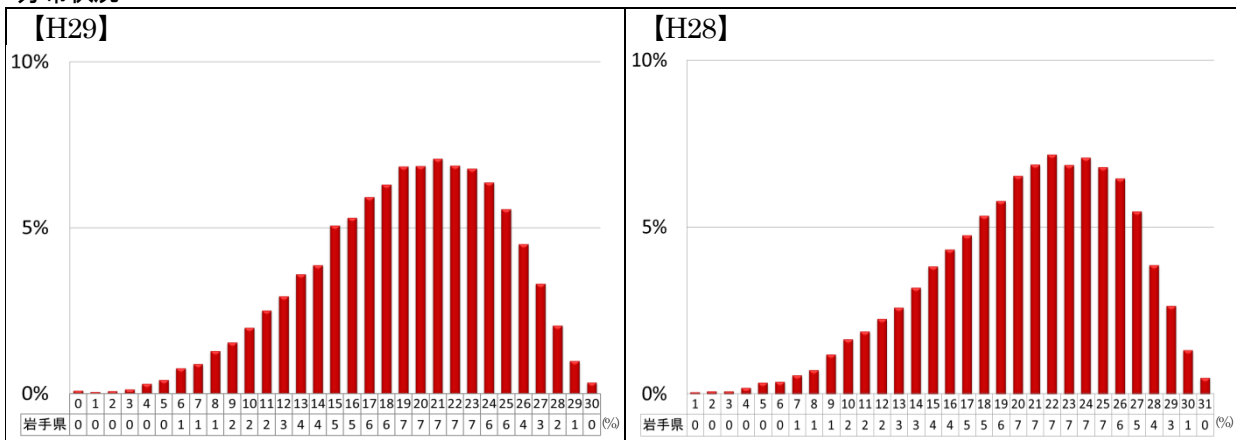


授業改善の手引 小学校第 5 学年国語

1 調査結果

(1) 分布状況



- 問題数は昨年度と同じで、正答数の最頻値は 21 問、平均正答数は 20 問です。昨年度の分布と比較して山が左に移動しています。また、平均正答数が 15 問以下の児童が全体の 25% となっており、この層に属する児童へのきめ細やかな指導が引き続き必要です。正答数 16～23 問の層の児童が全体の約半数を占めており、この層に属する児童への指導の工夫が重要です。
(正答数の最頻値：該当する児童数の最も多い正答数)

(2) 領域等の正答率

領 域 等	正答率		
	() は H28, () は H27		
話すこと・聞くこと (6 問)	66%	(62%)	(71%)
書くこと (2 問)	51%	(54%)	(54%)
読むこと (10 問)	58%	(64%)	(54%)
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (12 問)	69%	(70%)	(67%)
活用	42%	(50%)	(54%)

(3) 結果概要

- 領域ごとの正答率を比較すると、「話すこと」については昨年度を上回りました。正答率も 66% とよい傾向にあります。「読むこと」においては、「文と文のつながりをとらえて読む」問題や「説明されている事柄について、内容を正しく書き抜く」問題の正答率が向上するなど、よい状況にあります。
- 活用に関する問題「発言の内容をもとに、話し合いの流れをまとめる」問題は正答率 77% であり、よい傾向にあります。
- 「読むこと」の領域「登場人物の言葉から、気持ちを読む」と「段落相互の関係をおさえ、説明されている段落をとらえる」問題の正答率は低い傾向にあり、依然として課題が継続しています。
- 活用を意識した問題においては、「場面の展開に即して、登場人物の気持ちをとらえて読む」が正答率 35%、「文章の内容を正しくとらえ、目的や必要に応じて要約する」は正答率 32% と指導の工夫が必要です。

(4) 経年比較問題の状況 (○改善, ◇改善傾向, ●課題が継続, ▲は前回調査との比較マスを表す)

小問No	正答率	比較	小問No	正答率	比較
●11 (伝国)	71	▲ 3	◇19 (読)	75	1
●12 (伝国)	80	0	●27 (読)	45	▲ 36
●16 (伝国)	28	▲ 7	●30 (書)	40	▲ 8

- 小問 19 は正答率が向上し、改善傾向が見られましたが、引き続き注視が必要です。
- それ以外の小問については、依然として課題が継続している状況です。

(5) 小問別正答率

問題番号				調査問題のねらい	学習指導要領との関連	主な観点	備考	正答率	選択 No. (%)						
大問	中問	小問	通し番号						1	2	3	4	5	6	0
									選択	選択	選択	選択	誤答	正答	無解答
1	(1)	1		話し手の意図を考えながら、話の内容を聞くことができる。	5・6年「話・聞」(1)エ	話・聞		83	12	5	83	0	0	0	0
	(2)	2		発言の内容をもとに、話し合いの流れをまとめることができる。	5・6年「話・聞」(1)エ	話・聞	活用	77					20	77	3
	(3)	3		話し合いにおける司会の役割を捉えて聞くことができる。	5・6年「話・聞」(1)オ	話・聞		54	21	54	22	2	0		0
2	(1)	4		目的に応じて、アンケートの内容を改善することができる。	5・6年「話・聞」(1)エ 5・6年「書」(1)ア	話・聞		81	8	6	4	81	0		0
	(2)	5		収集した情報を取り入れて明確に説明することができる。	5・6年「話・聞」(1)ア・イ	話・聞	活用	27					69	27	5
	(3)	6		自分の伝えたいことが聞き手に伝わるように、分かりやすい資料を適切に用いることができる。	5・6年「話・聞」(1)ア・イ	話・聞		78	1	78	2	18	0		1
3	(1)	①	7	第4学年配当漢字「包(む)」を正しく読むことができる。	3・4年「伝国」(1)ウ(イ)	伝国		97					2	97	1
		②	8	第4学年配当漢字「失敗」を正しく読むことができる。	3・4年「伝国」(1)ウ(イ)	伝国		99					1	99	0
	(2)	①	9	第4学年配当漢字「必ず」を正しく書くことができる。	3・4年「伝国」(1)ウ(イ)	伝国		82					11	82	7
		②	10	第4学年配当漢字「周辺」を正しく書くことができる。	3・4年「伝国」(1)ウ(イ)	伝国		74					20	74	6
	(3)	ア	11	漢字辞典で部首索引するときの部首の画数を答えることができる。	3・4年「伝国」(1)イ(カ)・ウ(ウ)	伝国	経年	71					25	71	4
		イ	12	漢字辞典で部首索引するときの部首名を答えることができる。	3・4年「伝国」(1)イ(カ)・ウ(ウ)	伝国	経年	80					15	80	5
	(4)	①	13	文の意味を考え、反対の意味の言葉を答えることができる。	3・4年「伝国」(1)イ(オ)	伝国		83	13	1	83	0	2		0
		②	14	文の意味を考え、反対の意味の言葉を答えることができる。	3・4年「伝国」(1)イ(オ)	伝国		87	1	8	1	87	2		1
	(5)	15		漢字の由来や特質について答えることができる。	5・6年「伝国」(1)ウ(イ)	伝国		34	34	26	12	24	2		1
	(6)	16		文の構成を理解し、修飾語を正しく使うことができる。	3・4年「伝国」(1)イ(キ)	伝国	経年	28	38	9	23	28	2		0
	(7)	17		ことわざの意味や使い方を答えることができる。	3・4年「伝国」(1)ア(イ)	伝国		56	56	12	16	15	1		1
	(8)	18		文の意味を考え、漢字を正しく使うことができる。	5・6年「伝国」(1)ウ(ア)	伝国		40					36	40	24
4	(1)	19		場面の移り変わりを捉え、場面についての描写の一文を挿入することができる。	3・4年「読」(1)ウ	読	経年	75	7	7	8	75	1		2
	(2)	20		登場人物の言葉から、登場人物の伝えようとしている意味を捉えることができる。	5・6年「読」(1)エ	読		75	9	6	75	8	1		1
	(3)	21		登場人物の言葉から、気持ちを読むことができる。	5・6年「読」(1)エ	読		53					34	53	13
	(4)	22		場面の描写から、気持ちを読むことができる。	5・6年「読」(1)エ	読		80	6	80	4	8	0		2
	(5)	23		場面の展開に即して、登場人物の気持ちを捉えて読むことができる。	5・6年「読」(1)エ	読	活用	35	35	4	32	22	3		4
5	(1)	24		文と文のつながりを捉えて読むことができる。	3・4年「読」(1)イ	読		59	4	21	59	12	2		2
	(2)	25		文章の内容を正しく捉えて読むことができる。	5・6年「読」(1)ウ	読		54					35	54	12
	(3)	26		説明されている事柄について、内容を正しく抜き書きすることができる。	5・6年「読」(1)ウ	読		70	6	14	6	70	1		4
	(4)	27		段落相互の関係をおさえ、説明されている段落を捉えることができる。	3・4年「読」(1)イ	読	経年	45	6	45	30	13	2		5
	(5)	28		文章の内容を正しく捉えながら、目的や必要に応じて要約することができる。	3・4年「読」(1)エ	読	活用	32					55	32	13
6	(1)	29		段落構成を考えながら指定された長さの文章を書くことができる。	3・4年「書」(1)イ	書		61					24	61	14
	(2)	30		文章の構成に気を付けながら、自分の立場とその理由について理由を挙げて意見を書くことができる。	3・4年「書」(1)ウ	書	経年活用	40					44	40	16
全体正答率								64							

2 指導のポイント

(1) 目的に応じて文章を読んで整理し、その内容を互いに読み合う言語活動を工夫しましょう。

ア 問題の概要 【活用問題】

⑤ (5) 文章の内容を正しくとらえながら、要約することができる。

第3・4学年「読」(1)エ 正答率 32%

イ 誤答分析

- (ア) 無答率は13%でした。誤答を分析すると、示されている「部屋の温度」と「温度の変化」の二つの条件のうち、部屋の温度には触れずに、温度の変化を受けないことのみを取り上げた解答が多く見られました。
- (イ) この問題では、「部屋の温度」について述べている段落と「温度の変化」について述べている段落を見つけ、必要な叙述に着目しながらまとめることが求められます。つまずきの要因として、切り花をより長もちさせる方法として「部屋の温度」と「温度の変化」の関係を捉えながら読むことができなかつたことが考えられます。

ウ 指導上の留意点 【関連問題 中2-⑤(3)】

- (ア) 要約の指導では、目的を意識して、中心となる語や文を見付けて短くまとめさせることが大切です。まず、「自分の課題を解決するため必要な部分を短くまとめる」「本を読んで内容を紹介するために短くまとめる」等の要約の目的を明確にします。次に、文章全体の内容を正確に把握するために、段落相互の関係に着目し、考えとそれを支える理由や事例などの細かい点に気を付けながら読みます。そして、要約する分量や時間等を考え、元の文章の構成や表現を生かしたり自分の言葉を用いたりして要約できるように言語活動を通して指導していきましょう。
- (イ) 【伝えたいことをポスターで紹介する】等の言語活動を位置付けた際には、自分が必要とする事例や意見がどこにどのように書かれているのかを見付けてまとめさせるようにしましょう。「部屋の温度」について短くまとめる、「部屋の温度」と「部屋の変化」についての関係に着目してまとめるなどの目的に沿った要約をし、それについてペアやグループで読み合い、目的に応じた要約になっているか、表現は適切か等の観点を設定して相互評価を位置付けましょう。

(2) 複数の資料を用いて、自分の考えをまとめる言語活動を設定し、考えの理由や根拠を明確に表現させましょう。

ア 問題の概要 【活用問題】

⑥ (2) 文章の構成に気を付けて、自分の立場とその理由について理由を挙げて意見を書くことができる。

第3・4学年「書」(1)ウ 正答率 40%

イ 誤答分析

- (ア) 無答率は16%でした。誤答の多くは、「二段落構成でないもの」、「二つの雨具を比べて書いていないもの」と、「二つの資料の内容を踏まえずに書いたもの」でした。
- (イ) この問題では、「ちらし」と「当日の天気予報」の二つの資料から、選んだ雨具の利点と選ばなかつた雨具の難点を読み取って、二つの雨具を比べて考えを書くことが求められます。複数の資料を比べて読んだり、二つの事柄について同じ観点で考えたりするという経験が不足していることが考えられます。

ウ 指導上の留意点 【関連問題 中2-⑥】

- (ア) 自分の考えとそれを支える理由について書くためには、文章を書く目的を明確にし、自分の考えとそれを支える理由を明確にした上で、段落や文字数等の条件に応じて文章の構成を考えることが重要です。自分の考えとそれを支える理由を明確にすることは、「読むこと」の説明的な文章の学習とも深く関わります。事実と感想、意見などの関係を捉えて読む学習や、筆者の意見や主張を踏まえた上で、自分の考えを明確にしながら相手に伝えるためにどのような構成をしようとしたのかといった文章全体の構成を考える学習と関連付けるなど、学習内容の関連性を意識して指導することも大切です。

併せて、考えを支える理由を記述する際には、自分の考えとのつながりを意識しながら「なぜなら」、「そ

の理由は、「～ためである」などの理由を示す言葉や文末表現を用いて書くことができるように中学年の段階から指導しましょう。

- (イ) 複数の資料を比較したり分類したりしながら自分の考えを明確にするために、例えば、「自分の課題を設定し、選んだ事物のよさを調べてまとめ、それを基に自分の考えたことを書く言語活動」などを通して指導すると効果的です。これらは、複数の資料から情報を得ることが必要となり、自分の考えを伝えるために、得た情報が自分の考えの理由や根拠としてふさわしいかどうか吟味することが不可欠です。集めた情報の共通点や相違点を比較する、共通する観点で分類して検討する、自分の考えと合致している情報が確かめる、といった整理をすることです。このような言語活動を通して、筋道立てて自分の考えをまとめる力を付けていきましょう。

また、これは各教科等の学習にもつながることから、授業後には、各教科等の学習や教育活動全体との関連を図り、様々な学習場面において自分の考えとその理由を書く活動を意図的に組み入れながら継続して指導していきましょう。

- (3) 登場人物の心情の変化について、根拠となる事実を複数の場面や文章から見つけて説明する学習活動を大事にしましょう。

ア 問題の概要【活用問題】

4	(5) 場面の展開に即して、登場人物の気持ちをとらえて読むことができる。 第5・6学年「読」(1)エ 正答率35%
---	--

イ 誤答分析

- (ア) 誤答を分析すると、登場人物の心情について、「なやんでだまりこんでいる」、「悲しみをのりこえようとしている」、「つらさにおしつぶされそう」で迷った様子が見受けられます。また、引用されている情景描写と登場人物の心情や様子とを結び付けて読むことができなかつたと推察されます。
- (イ) この問題では、登場人物の心情が情景描写にも表れていることを理解し、文章全体を俯瞰してとらえながら、内面にある心情を読み取る力が求められます。つまずきの要因として、情景を描写した場面について、表面的な読み取りにとどまり、文章全体のつながりを意識しながら、描写に着目して登場人物の心情を読む経験が不足していることが考えられます。

ウ 指導上の留意点【関連問題 中2-4(3)】

- (ア) 登場人物の心情をとらえるには、特定の場面の叙述だけでなく、文章全体を通して散りばめられた複数の叙述を基に考えさせることが大切です。手がかりとなる叙述を文章全体から取り出し、関連させて心情をとらえる学習を取り入れましょう。その際、場面の展開とともに変化していく登場人物の相互関係を押さえ、その内面にある心情と表現とを結び付けることが求められます。中学年までは、登場人物の行動や会話に基づき、叙述に即して気持ちの変化をとらえました。そのことを踏まえ、高学年では登場人物の相互関係や心情を、さまざまな観点の描写を基にとらえる必要があります。
- (イ) 登場人物の心情は、人物相互の関係に基づいた行動や情景等を通して暗示的に表現される場合があります。授業では、登場人物の心情をとらえるために、児童が「行動や会話が心情を反映している文章」や「象徴性や暗示性の高い文章」に着目し、場面の展開に即してとらえることができるようにしましょう。その際は、文章全体を俯瞰しながら登場人物の相互関係や心情を読み取るために、全文プリント等を効果的に活用しましょう。場面の移り変わりを意識し、心情の変化を複数の叙述からとらえやすくなります。

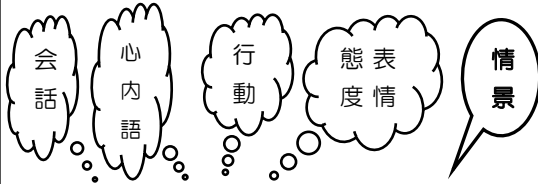
この問題では、三匹目の子犬を預かってほしいという電話で場面が展開し、お母さんの問いかけによって登場人物の心情が揺れ動きます。場面が展開する前と後で、どのような心情の変化があるのか丁寧に読み取らせていきましょう。また、話し合い活動に向けて、サイドラインを引かせたり矢印でつなげさせたりして、自分の考えがどの叙述に基づいているのか、児童が自覚できるようにしましょう。

【登場人物の心情をとらえる学習活動を位置付けた展開例】 <1時間の流れ>

教材例 登坂恵里香「ラブの贈り物2」より（平成29年岩手県小学校学習定着度状況調査）4

【視点1 学習の見直し】

①登場人物の心情がどのように表現されているかを考える。



直接表現されている | 直接表現されていない

②登場人物の心情の変化と表現の効果について考える。

変化のきっかけは？
はじめと終わりで
は、どう変わっている
のかな？

心情が情景描写で
表されることの効果
って何だろう？

【視点2 学習課題（学習問題）を解決するための学習活動】

③ 観点を基に登場人物の心情が分かる描写（表現）を見つけ、自分なりの考えを持つ。

【描写の観点】

【見つけた描写（例）】

【描写に関する自分の考え（例）】

- A【表情・態度】「うつむいた健也のほっぺたを、なみだか転げ落ちていく。」 → 『自分だけじゃない』と思うとよけいに別れが悲しい。
- B【心内語】「ラブに盲導犬になってほしいのに、ここにいてほしい。」 → 正反対の気持ちが同時にできて、どちらにしたいのかわからない。
- C【会話】「…ラブの顔見たら悲しくなっちゃって、さびしくなって…」 → 分かっているけど、悲しさやさびしさが強くなっている。
- D【行動】「うなずいたとたん、がまんしてないなみだがあふれてしまった。」 → 悲しさやさびしさのピーク。
- E【情景】「静かな部屋の中で、ラブのせきの音だけが、細くひびいていた。」 → みんな困ってだまりこんだ。静かさが強調されている。

情景描写の部分を取り出し、吹き出し等を使って、登場人物の心情を想像させることも効果的です。

④ 見つけた表現を手がかりに、登場人物の心情やその変化、表現の効果を話し合う。

Aの健也のなみだは、美咲の気持ちにも重なります。きっと美咲も、さびしくて泣きそうだったけど、お姉さんだからがまんしていたのだと思います。

Bは、正反対だけど、どちらも、本当の気持ちだと思います。自分の気持ち、ラブの役目、ラブを待っている人のこと等、考えれば考えるほど、答えがなかなか出ないと思います。

AはDにつながると思います。健也や修志の涙を見ても踏みとどまっていた美咲の思いが、ここで一気に出てくる場所だからです。

BとCはつながっています。「わかっているけれど、それでも…」と悩んでいます。ここでの悩みや迷いが、最後のEにもつながっていると思います。

※心情の変化をとらえるのが難しい場合には、変化のきっかけとなった出来事に目を向けさせ、その前後の心の動きに注目させましょう。

※心情は急激に変化することもあります。進んだり戻ったりしながら、徐々に変化していくこともあることを押さえましょう。

はじめは悲しさやつらさが大きかったけど、最後は「どうしたらいいんだろう」という気持ちが強くなっていると思う。

直接気持ちは表現されていないけど、気持ちの変化に合わせて考えると、美咲の気持ちと最後の情景描写はぴったり重なるね。

ラブのせきだけが細くひびくことで、その場の静かさが強調されているし、美咲たちの悩みの深さも伝わってくるね。

電話をきっかけに、「悲しさ」や「つらさ」が入りまじった、「どうしよう」という迷いが大きくなっていくのが分かるよ。

※子供たちの実態に合わせ、ペアやグループ等、話し合いの形態を工夫しましょう。

【視点3 学習の振り返り】

⑤ 登場人物の心情のとらえ方について振り返る。

- 会話や行動、表情等、複数の描写を基にすると、登場人物の心情の変化を読み取ることができる。
- 情景描写の部分にも、人物の心情が表現されている。それまでの会話や行動と関わらせて読むことによって、登場人物の心情を印象付ける効果がある。

※学習して分かったこと、次に生かしたいことなど、振り返りの視点を明確にしましょう。

※交流して得たこと、友達意見を聞いて考えたことなど、交流についても振り返らせましょう。